



「冬」 行事や季節にまつわる本



	タイトル	著者名	出版者	LAのおすすめ文	請求記号
1	「和」の行事えほん〈2〉秋と冬の巻	高野紀子	あすなろ書房	心温まる絵と共に、和の行事を生活に取り入れてみませんか。 大人が読んでも楽しい絵本です!	726.6:夕:2
2	季節風 冬	重松清	文春文庫	この短編集は、冬の季節を舞台に様々な人間模様を描いた作品集となっています。収録作品はいずれも日常生活の中で起こる小さな出来事を描いたものばかりです。両親・恋人・友人・子供... 冬の中のイベントたちそれぞれの色を楽しめる物語は、懐かしさを感じ、感動し、そして心がほっとします。	913.6:シ
3	輝く夜	百田尚樹	講談社文庫	クリスマスの夜を彩る5つの奇跡の物語。 どのお話も女性が主人公で、ストーリーの展開がスムーズなので心地よく読むことができます。良い事も悪い事も人生色々あるけれど全て最後はハッピーエンド。 読んで心が温まるクリスマスプレゼントのような短編集です。	913.6:ヒ
4	鬼と日本人の歴史	小山聡子	筑摩書房	冬の行事といえばたくさんありますが、その中でも節分を取り上げようと思います。 え、節分って春の行事じゃないの?と思ったあなた!実は立春(2月4日)の前日に節分は行われるのです! 節分といえば鬼が出てきますよね。そこで日本の鬼について述べられた新書をピックアップしてみました。ぜひご覧ください。	387:コ
5	秋and冬CAMP:いわてキャンプガイド	アキ and フユ CAMP	岩手日報社	秋と冬の「絶景」を楽しめる岩手のキャンプを大特集。秋冬にしか楽しめない美しい自然を見てみませんか。	291.22:ア
6	雪の階	奥泉光	中央公論新社	「もし雪が球体ならばもっと規則正しく運動するだろう。」 舞台は戦前昭和、令嬢が親友の心中事件の真相を追う華麗かつ重厚なミステリーロマン。	913.6:オ
7	素敵な日本人	東野圭吾	光文社	東野圭吾さんによる、全9編からなる短編集です。「正月の決意」や「クリスマスミステリ」など、冬の行事に関するお話も含まれています。	913.6:ヒ
8	鍋料理と酒の肴	河野貞子, 宮本三郎, 金田美喜子, 坂本喜恵子	世界文化社	肌寒くなってきた今日この頃。身に染みる暖かい料理を作る人も増えて来たのではないのでしょうか?!そこで今回は冬の定番・鍋料理と酒を嗜み始めた大学生が知りたいであろうおつまみを取り上げた本をセレクトしました!	596.08:ク1:18
9	枕草子	清少納言(著)、酒井順子(現代語訳)	河出書房新社	「冬はつとめて」とは「冬は早朝がよい」という意味だそうです。 現代でも、冬の朝早く、誰の足跡もついていない雪景色などは心躍る光景ですね。	918:ニ:8
10	暦と祭事—日本人の季節感覚	宮田登	小学館	日本人は季節感覚に鋭敏な民族であり、年中行事も多彩である。なかでも正月と盆はその中心である。祭事におよぼす仏教・道教の影響、地域社会や民衆生活における祭事の機能を新しい角度から詳述する。	382.1:ニ:9
11	雪わたり	宮沢賢治	岩崎書店	四郎とかん子は、雪の野原に遊びに行くときつねが現れた。きつねは人をだますという言い伝えがあったが、四郎とかん子は・・・ キック、キック、トントン。	913.6:ミ
12	名作に描かれたクリスマス	若林ひとみ	株式会社岩波書店	冬を舞台にした物語ではよくクリスマスが登場します。しかし、クリスマスは全ての物語で同じように描かれているわけではありません。その小説の時代背景などによって少しずつ違う描かれ方をしているのです。 この本は様々な本で描かれているクリスマスを紹介しています。 あなたも、本を通して様々なクリスマスに触れてみませんか?	902.09:フ



「冬」心温まる小説



	タイトル	著者名	出版者	LAのおすすめ文	請求記号
1	かがみの孤城	辻村深月	ポプラ社	子どもの成長が感じられる感動の一冊。	913.6:ツ
2	コーヒーが冷めないうちに	川口俊和	サンマーク出版	過去に戻れると噂の不思議な喫茶店に訪れる、4人の女性たちの愛と後悔の物語。2018年に映画化もされています。	913.6:カ
3	ツナグ	辻村深月	新潮社	亡くなった人にまた会える、、、そうになったらあなたは何を伝えますか。 それをこの冬に大切な人に伝えてみませんか。 ためらってないで、今です! この冬です!	913.6:ツ
4	ツバキ文具店	小川糸	幻冬舎	この本を読むと、心が落ち着いて所作が丁寧になります。 焦りを感じている人は、一度この本を読んで一休みをしましょう。 私のお気に入り、鳩子とバーバラ婦人の「キラキラ」トークです(笑) また、ページの端っこにあるパラパラ漫画にも注目です! 伝えられなかった大切な人への想い。あなたに代わって、お届けします。	913.6:オ
5	てぶくろ：ウクライナ民話	エウゲーニー・M・ラチョフ	福音館書店	てぶくろの中は動物で満員	726.6:ラ
6	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野圭吾	角川文庫	心温まる少し不思議なファンタジー。 時空を超えた悩みの相談から展開されるストーリーは、考えさせられるのではなく「感じさせてくれる」そんなお話です。読めば読むほどその世界に引き込まれていき、読み終わったあとはきっと心が温まります。 最初は多くのことが謎に包まれています。章を追うごとにそれぞれのつながりが見えてきて、最終的にはタイトルにもある「ナミヤ雑貨店」に集約していく。	913.6:ヒ 913.6:ヒ
7	マカン・マラン 二十三時の夜食カフェ	古内一絵		優しさ溢れる料理と言葉が印象的です。 実際にこんなカフェがあったら行ってみたいですね。	913.6:フ
8	強運の持ち主	瀬尾まいこ	筑摩書房	元OLが営業の仕事で鍛えた話術を活かし、ルイズ吉田という名前の古い師に転身。ショッピングモールの片隅で、悩みを抱える人の背中を押す。何かに頼ることで少しずつ前を向いて進んでいく人々の姿が、優しく暖かく表現されている。	913.6:セ
9	木曜日にはココアを	青山美智子	宝島社	喫茶店「マーブル・カフェ」を舞台に12編の連作短編で構成されています。すべてのお話がどこかでリンクしているため、人と人の繋がりを感じ、心温まり優しい気持ちになることができる本となっています。	913.6:ア
10	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦	角川文庫	大学生の色彩豊かな日常をユーモラスかつ柔らかく描いた作品。作品内では四季すべてが描写されるが、中でも最終章は冬を舞台としながらも暖かさに満ちあふれている。	913.6:モ
11	星をつなぐ手	村山早紀	株式会社PHP研究所	ひよんなことから桜野町にある書店を任された月原一整。しかし地方の小さな書店であるだけに、様々な困難が降りかかる。一整はその困難にどのように立ち向かっていくのか。 今も昔も変わらない、人と人とのつながりと温かさが、今再び優しい奇跡を巻き起こす。 ※この本は「桜風堂ものがたり」の続編となっております。 「桜風堂ものがたり」は図書館で借りることができますのでそちらも読んでみてください。	913.6:ム
12	キッチン	吉本ばなな	新潮文庫	あなたの好きな場所はどこですか? 読んだだけで心が癒される、そんな温かい作品です	913.6:ヨ